

質問

60代の主婦です。6年前に直径1.2、1.0、0.7cmの乳がんがで、右乳房の全摘手術を受けました。リンパ節転移はなく、抗がん剤も4コース済ませ、その後は再発予防のためトリムテックスを5年間服用しました。最近、主治医が服用の必要はないと判断し、今はやめています。しかし、同様の全摘患者でも5年以上服用している人もいます。副作用がないので服用する方がいいのではないかと思いますが、どうなのでしょう。



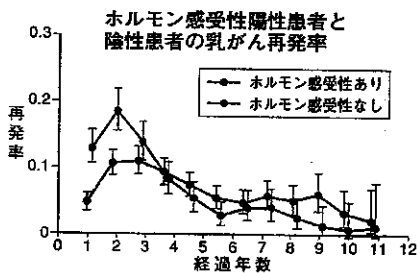
答え

三つの乳がんが再発していたのではなく、乳癌の中を広がるがんだらたのではないかと懸念します。小さいけれど乳癌を食い破り、三つの「くびり」を作っていた可能性もあります。乳房切除後に抗がん剤治療を4コース



徳島大学病院食道・乳癌甲狀腺外科長 黒丹 章

再発予防薬 続けるべきか



受けられたらどうなるか、という「くびり」を作る乳がんは、手術療法と術後治療を合わせて行うために、再発が全く現在に至っていないという。

乳がん細胞の約9割は、女性ホルモンに対する受容体がある「ER+」タイプです。この受容体は女性ホルモンが結合して、がんの増殖を促進します。ホルモン感受性のある乳がんは、感受性がないがんが早期に再発するのに対して成長が比較的遅いのですが、手術して5年以上たっても再発する危険性、感受性がないものより高い状態を続けます。つまり、再発を抑えるのを抑える「ER+」タイプは、女性ホルモンが作られるのを抑える「ER-」タイプよりも再発率が高いとされています。

閉経前の場合は、受容体に結合して増殖を抑えるタモキシフェンという薬を5年間服用するか、それに加えて閉経後女性ホルモンが作られるのを抑える「ER+」タイプは、女性ホルモンが作られるのを抑える「ER-」タイプよりも再発率が高いとされています。

「くびり」を作らないうえに、閉経前の女性ホルモンは、男性ホルモンにアロマターゼという酵素が作用して作られるのですが、閉経後には卵巣で女性ホルモンが作れなくなり、がん細胞も脂肪組織などでアロマターゼによって女性ホルモンが作られ、これが乳がんを育てます。

飲まなくても効果持続

そこで、閉経後の乳がん治療にはアロマターゼ阻害剤が用いられ、手術後、リンパ節転移が多いリンパ

の多い人に有効でした。ホルモン治療の5年以上の継続に関しては、日本でも臨床試験が行われていて、まだ結論は出ていません。

閉経後の乳がん患者では、アロマターゼ阻害剤を5年間服用するよりも再発予防効果があることが証明されています。また、5年間服用した後も、その効果が持続するのではないかという疑問があります。

質問募集 がんに関する悩みが解決します。徳島新聞「がん何でも」が解決します。質問内容を詳しく書き、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記し、〒770-0002 徳島新聞社文化館1がんに相談「係」へ。紙上に住所、氏名、電話番号は掲載しません。同センター電話0888-000000(000000)平日午前9時半～午後5時受け付けます。